

| | | | |
|-----------------------|---|------|------------|
| 科目名 | 日本の文学 | | |
| 教員名 | 阿部 秀高 | | |
| 授業種別 | 週間授業 | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔 | 週 1 回 | 単位数 | 2 |
| 履修年次 | 2 | 学期 | 2019 年度 前期 |
| 到達目標 | <p>一般教養として必要な日本文学に関する教養を身につけることを目標とする。</p> <p>①日本の著名な作家とその作品に触れ、その魅力を探りながら、作品への理解を深める。また、捉えた作家や作品の魅力进行交流し、より幅広い教養を身につけることを目標とする。</p> <p>②日本の著名な詩人や俳人と作品に触れ、その魅力を探りながら、作品への理解を深める。また、捉えた作家や作品の魅力进行交流し、より幅広い教養を身につけることを目標とする。</p> | | |
| 授業概要 | <p>日本文学史を振り返り、日本文学史に残る著名な作家の人生とその作品の魅力に迫るために、その作家の背景や生き方と作品とのつながりを探っていく。教材としては、有名な古典文学をはじめとして、夏目漱石、芥川龍之介、太宰治など、明治、大正、昭和を中心に就職試験、採用試験などに取り上げられやすい作品を用いて、作品を読む力を身につけることができるようにする。読み取った作品の魅力などを紹介する場面をもうけ、論理的に表現する力を高めていくことにも配慮する。</p> | | |
| 授業計画 | <p>第 1 回 オリエンテーション：授業の概要、目標、評価の方法、講義の受け方について</p> <p>第 2 回 日本文学史を有名作品から振り返る。古代～中世</p> <p>第 3 回 日本文学史を有名作品から振り返る。近世</p> <p>第 4 回 日本文学史を有名作品から振り返る。近代～現代</p> <p>第 5 回 知っておきたい日本文学の読み方①古典文学</p> <p>第 6 回 知っておきたい日本文学の読み方②短歌・俳句・詩</p> <p>第 7 回 知っておきたい日本文学の読み方③小説</p> <p>第 8 回 作品の読み合わせと魅力の交流ワーク① 学生が選んだ作品を読み合わせ、その魅力に対する意見交流を行う。</p> <p>第 9 回 作品の読み合わせと魅力の交流ワーク② 学生が選んだ作品を読み合わせ、その魅力に対する意見交流を行う。</p> <p>第 10 回 作品の読み合わせと魅力の交流ワーク③ 学生が選んだ作品を読み合わせ、その魅力に対する意見交流を行う。</p> <p>第 11 回 作品の読み合わせと魅力の交流ワーク④ 学生が選んだ作品を読み合わせ、その魅力に対する意見交流を行う。</p> <p>第 12 回 作品の読み合わせと魅力の交流ワーク⑤ 学生が選んだ作品を読み合わせ、その魅力に対する意見交流を行う。</p> <p>第 13 回 作品の読み合わせと魅力の交流ワーク⑥ 学生が選んだ作品を読み合わせ、その魅力に対する意見交流を行う。</p> <p>第 14 回 作品の読み合わせと魅力の交流ワーク⑦ 学生が選んだ作品を読み合わせ、その魅力に対する意見交流を行う。</p> <p>第 15 回 これまでの日本文学に関する学びをまとめる。課題レポートの作成。</p> | | |
| 授業方法 | 前半は講義形式に意見交流を組み入れる。第 8 回以降は演習形式で、学生の発表をもとに授業を進める。 | | |
| アクティブ ラーニング の視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・後半の作品の読み合わせワークにおいては、学生が主体となって自分の紹介する作品、作家についてのプレゼンテーションを作成し、解説を行う。 ・全ての授業でグループワークを取り入れ、意見を交流する場を設定する。 | | |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回以降、次回に行う内容を開示するので、読んでおくことを求める。 ・第 8 回以降の作品の読み合わせと魅力の交流ワークでは、作品を前もって配り、意見が言えるようにしてク事を求める。 | | |
| 教科書 | 古典名文暗唱判定テスト級別規準テキスト 3・4 級編 古典名文委員会 (株) ERP | | |
| 参考書 | 授業中に適宜紹介する。 | | |
| 評価方法 | <p>①毎回の授業で記録する学びの履歴シート 50%</p> <p>②作品の読み合わせと魅力の交流ワークにおける資料作成、発表 20%</p> <p>③課題レポート 10%</p> <p>④授業への参加度 20%</p> <p>グループワークでの活動、質問への回答など、授業での主体的・対話的な学びの姿を評価する。</p> | | |
| 既修条件 | なし | | |
| 実務経験のある教員による授業 | 小・中学校現場での国語科の授業経験を活かし、一般教養として日本の文学に関する知識を伝達するだけでなく、日本文学を教材として、文学作品の読み方や、楽しみ方を学ぶ。 | | |